優　良　賞

日々の意識で理想に近づく

橿原市立光陽中学校　２年　湊谷　桐子

中学二年生になり、将来の夢が決まる人もどんどん増えてきました。

私は将来就きたい仕事はまだ決まっていません。しかし、私には理想とする大人がいます。それは、私が小学三年生から習いに行っている習字の先生です。

先生はとてもいい人で、いつもいろいろな話を聞かせてくれます。

先生はいつも優しく、私が苦手な字があってもいろいろな表現で私に伝わりやすいようにあの手この手で教えてくれます。でも、それは私が思っているよりも、ずっと難しいことだと思います。

伝えたいことが上手く相手に伝わらなかったとき私ならきっと、イライラしてしまうと思います。ですが、先生は決してイライラしたりせず、私が納得する字を書けるまでゆっくりと待っていてくれます。私が字を書くときに先生が急がさずに見守っていてくれることで自分の納得のできる字を書けるのだと思います。

だから、私はいつでも優しく、たとえ伝えたいことが伝わらなくても。イライラしない広い心を持った人になりたいです。そのためには、どんな相手でも困った人がいればすぐに手を差し伸べることが大切だと思います。私は見ず知らずの相手だと困っていそうでも見なかったふりをしてしまいます。しかし、優しい人になるためには、その人の助けになるのかわからなくても、まずは手を差し伸べるその行動が大切だと思います。

広い心を持つためには、みんな考え方や能力などが違うので、自分の気持ちや意見が伝わらなくて当然だと考えると良いと思います。私は、イライラしてしまったときにどうしてイライラするのかを考えてみると、「自分だったらこうするのに」とか「どうしてこれができないんだろう」と自分を基準にして相手を比べていたからだと思います。

そんな理想とする人間像を教えてくれた習字ですが、中学校に入り部活が忙しくなり、両立するのが難しくなってきました。ですが、やっぱりまだ続けたいという思いもあり、迷っていました。すると先生が「まだ続けることができそうやったら続けてみてもいいと思うよ。」と安心させてくれました。その言葉をかけてもらえたことで、私は安心し、続けることができました。

習字に行くのは部活のあとなので疲れていますが、習字に行くと楽しくて時間を忘れるくらいです。

習字に行きたいと思う理由は、もちろん習字をするのが楽しいからという理由もあります。でも、それだけではありません。習字に行くと居心地が良いということと、習字をすると嫌なことを忘れることができるからです。集中する分疲れているはずなのに、勉強で上手くいかなかったことや、部活で上手くいかなかったことがあっても習字に行ったあとはとても気持ちがスッキリしていて元気になっています。それは習字を書くばかりではなく、私の集中力が切れた頃に先生が世間話をしてくれたりして息抜きができるからだと思います。先生といるととっても居心地が良く、私のおばあちゃんのような感覚で安心します。

私はやりたい仕事に就くよりも理想の大人になることのほうが難しいと思います。やりたい仕事だとその仕事に就くための勉強道具はありますが、理想の大人になるための勉強道具はありません。理想の大人になるためには今までとは違う考え方をする必要があるのです。

誰にとっても居心地が良い人になるのは難しいことかもしれません。それでも私は居心地が良いと思われるような人になりたいです。そのためには、相手の意見を否定ばかりせず、相手の意見に耳を傾けることが大切だと思います。

私はこれから日々意識していこうと思います。習字の先生のような理想の大人に近づくために。